

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立鬼塚小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、できる限り通常の授業・学校行事に近い形での実施となるよう工夫しながら全職員で考えて取り組んだ。校内研究で取り組んでいる道徳教育については、道徳教育推進教師を中心に、互いの良さを伝え合い、認め合う道徳科の授業づくりに対する職員の学びが深まった。 ・学力向上については、基本的な知識・理解の習得に課題があるため、今後も全職員で取り組むこととする。また、タブレット端末を活用した授業づくりを進めるとともに家庭学習も定着させたい。 ・教職員の働き方改革については、職員の意識は高まりつつある。今後も教職員の意識改革と、疲労感軽減、働きやすさに向けて工夫する必要がある。
------------------	--

2 学校教育目標	<p>笑顔いっぱいの学校づくり ～温かい心で認め合い、励まし合い、支え合う子どもの育成を目指して～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 考える力：道徳を軸とし、他教科での言語活動の充実を図る。 ② 心の力：家庭・地域と連携した体験活動や人権教育の充実を図ることで、豊かな心を育む。 ③ 体の力：体力向上をめざし、健康教育を推進する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員による共通理解と共通実践 ○児童が学んだ内容、学び方、学んだプロセスを自覚できるように振り返りを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市販の国語・算数科学期末まとめテストで、期待平均値を上回る。 ○児童アンケートで、「だいたい当てはまる」以上と回答した児童80%以上。教職員アンケート「唐津学びスタイルで授業を行い、評価・改善しながら授業改善に努めている」と回答した教職員90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文や資料に線を引いたり、書き込みをしたりしながら考える習慣づけを図り、自力解決する意識を高める。 ・唐津学びスタイル(「リフレクションを充実させメタ認知を高める取組」)に全教職員で取り組む。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○①「命を大切にしている」②「まわりの人のことを思いやり、進んで親切にしている」③「差別をしないで、だれに対しても同じように接している」について、肯定的な回答をした児童85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に伝え合う活動を入れ、互いの意見を尊重し、認め合えるような学級づくりに取り組む。 ・人権教育(人権集会等)の全校的な取組の充実。 ・学習した道徳的価値を深めるために、週末の「家族でタイム」(道徳教材を家族で読んだり話したりする取組)を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権集会(コンサート)を行い、互いに認め合うことの大切さや自分らしく生きることの尊さを考える機会を得ることができた。 ・「友達タイム」「みんなでタイム」がより充実するように、道徳科の授業づくりの工夫を行った。 ・12月のアンケートでは、①98.0% ②88.2% ③89.5%だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心を育むためには、学校内での異学年交流や学校間での交流があることは望ましい。加えて、地域とのつながりを今後も大切にしてほしい。そのきっかけが挨拶や言葉掛けである。
	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員95%以上 ○アンケートで「学校が楽しい」と回答する児童90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート等を通して児童の状況を把握し、いじめの早期発見や早期解決に取り組む。 ・生活指導協議会や児童理解研修会等で気になる児童の情報共有を行い組織として対応する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを定期的実施することで情報共有ができ、早めの対応ができるようになった。 ・生活指導協議会での話し合いをを問題行動を主体にしたことで、全職員で対応することができるようになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見、早期対応のためにはこまめにとるアンケートは有効であると思う。職員間で内容を共有して複数人で対応することを継続して欲しい。
	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「がんばりたいことや目標をもって、それを最後までがんばっている」について、肯定的な回答をした児童85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との交流や体験活動、学校行事等でサッカーカード(目標・振り返りカード)を活用し、自分を見つめる機会を計画的に設定する。 ・桜カードに保護者や地域の方から児童へのメッセージを書いていただくことで、自分や友達を多面的、肯定的に捉える機会をつくる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事だけでなく各学年の取組でもサッカーカードを活用することで、保護者にも児童の頑張りと成長を伝えることができた。 ・掲示板が、保護者からの桜カード、児童同士の桜カードでいっぱいになり、児童の自己肯定感を高める一助になった。 ・12月のアンケート結果は、90.8%だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・夢や希望に向けて目標を立てることは重要である。児童は多くが、目標があり努力をしているという意識をもっているようだが、保護者はその割合が児童ほど高くない。保護者と児童と認識の共有化が次なる課題となるであろう。 ・「桜カード」などの取組により児童の自己肯定感の高さは保たれているように思う。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」 	<ul style="list-style-type: none"> ●休み時間以外で遊ぶ児童の割合85%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える児童90% ○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ○自転車等の乗り方等について、「交通ルールを守っている」と回答する児童80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日に外で遊ぶことを推奨する。 ・運動会、持久走大会など体育的行事に向けた児童の自主的な取り組みを進める。 ・給食週間に取り組む。 ・食育、給食指導の充実を図る。 ・避難訓練や安全教室などの計画的に実施する。 ・校区内の通学路や危険個所の点検を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全校ドッジボール大会を企画し、運動を推奨した。 ・給食週間では、動画視聴をし、給食センターの方へ感謝の気持ちを伝える活動を行った。 ・避難経路の見直し等をする中でより安全に留意して実施できた。 ・危険個所を実際に確認することで、現状に即した安全マップを作成し、職員で共有できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守ろうとする意識が高まってきた。学校生活のリズムが整っていることの表れである。 ・食育に関して、給食指導を通じて、「感謝の心」をもち続けるよう継続指導を願う。 ・危険箇所チェックを継続していただきたい。 ・見守りボランティアの高齢化と後継者不足が地域の課題である。幸い、校区で事故は起きていないが、今後どのように安全を担保していくのか課題である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝達事項は文面で伝え、協議するものを絞ることで、職員会議を1時間以内、職員連絡会は20分以内で行う。その達成率を80%以上とする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡会や職員会議の時間は、目標値を100%達成することができている。電子掲示板の活用、行事の目的化など業務の効率化への意識の高揚を図ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・留守番電話の導入など勤務時間を明確にすることは良い取組である。授業の準備など本来業務に専念できる。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●職員の特別支援教育に対する専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケートで、児童や保護者対応についての意識向上80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員対象の研修を行い、児童理解と指導力の向上を図る。 ・定期的(1月に1回程度)にケース会議を開き、より適切な指導に取り組んでいく。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上について、唐津学びスタイルと校内研究の取組により、一定の成果があったと捉えた。来年度は、さらに学習の質的な向上をめざし、学習の目的・内容・方法について、改めて検討を重ねていく。「客観的数値による児童実態の把握」「学ぶ目的の明確化」「学びが深まるための対話の在り方」「学びが深まるためのICT危機の活用」を観点とする。 ・心の教育の面では、所属感、効力感など自己を肯定的に捉える児童の姿がうかがわれたことから、取組に妥当性であったことを確認した。今後は、この教年で希薄にならざるを得なかった地域とのつながりや保護者とのつながりを推進し、児童の心身の健全育成をめざしていく。 ・校内支援会議やケース会議の充実により、特別支援教育への理解を進めることができた。今後も特別支援教育の考え方や具体的な手立てを広く共有し、児童に寄り添った指導の充実を図っていく。
----------------	--